

ジャム・セッションといえばこの曲!

チキン

The Chicken

難易度 ★★☆☆

この曲について

ジャコ・パストリアスの演奏で有名ですが、もともとはジェームス・ブラウンのバンドに在籍したピーウィー・エリスの曲。イントロのベース・ラインとキメが印象的なセッションの超人気曲です。壮大な前奏の

付いたバージョンもあるのですが、通常は省略して演奏されます。テーマの終わりにB^bマイナー・ペンタによる全員ユニゾンが登場し、それによってジャム・セッションで一体感を得ることができます。

演奏のポイント

テーマがB^bメジャー・ペンタ(=Gマイナー・ペンタ)中心にプレイされていることを押さえておきましょう。コードごとに細かくスケール・チェンジをしてもいいのですが、曲の持つファンキーなイメージとは離れた勢いのない演奏になりがちです。曲想に合ったプレイを展開するなら、ソロ時にはB^b7 = B^bメジャー・ペンタ、E^b7 = B^bマイナー・ペンタ、D7 → G7 → C7 = B^bメジャー・ペンタ(D7時にF[#]音、G7時にB音を付加すると効果的)というシンプルなアプローチの方がスピード感あるプレイになる確率が高いと言えます。もちろん巧者なら各コードをスタート音とするマイナー&メジャー・ペンタのミックス

で弾き、G7時にドミナント系フレーズをはさむなどすれば、コード進行を感じさせるアドリブになります。

弾きこなすためのキーワード

イントロのコードは人によってB^b7一発で押し通すことがあります

B^bマイナー・ペンタ一発で弾き通せそうですが、そうは問屋が卸しません

かといって律儀にスケール・チェンジすると失速しやすくなります

ジャム・セッションの落とし穴

- ✓ アドリブ時に全員キメの部分をスベってしまうと残念な感じに
- ✓ バッキングが盛り上がり過ぎてソロを弾いている人の音をかき消しやすい
- ✓ 管楽器に合うメロディなので、音が伸びないクリーンは要注意
- ✓ 会場の空気を察せずに何周もソロを弾き続けてしまいやすい

ジャム・セッションのためのミニ・レッスン

リハーモナイズの例

A E^bΔ7 Daug7(#9) Gm7⁽⁹⁾ Fm7⁽⁹⁾ B^b7

B^b メジャー・スケール G ハーモニック・マイナーなど B^b メジャー・スケール E^b メジャー・スケール

G マイナー・ペンタ (=B^b メジャー・ペンタ)

ペンタ中心のアプローチ

E^bΔ7 G^bΔ7 Dm7⁽⁹⁾ G7

B^b メジャー・スケール D^b メジャー・スケール C メジャー・スケール

G マイナー・ペンタ B^b マイナー・ペンタ A マイナー・ペンタ C マイナー・ペンタ

B^b メジャー・ペンタ→B^b マイナー・ペンタという同主調的アプローチ Cメジャー・ペンタ→Cマイナー・ペンタという同主調的アプローチ

B Cm7 A^bΔ7 BΔ7 N.C.

B^b メジャー・スケール E^b メジャー・スケール G^b メジャー・スケール

C マイナー・ペンタ (=E^b メジャー・ペンタ)

G マイナー・ペンタ (=B^b メジャー・ペンタ) B^b マイナー・ペンタ

メジャー・セブンス・コードに対して、半音下のマイナー・ペンタを弾けば
Δ7th・9th・Δ3rd・≠11th・13th という美味しい音が得られるアプローチ

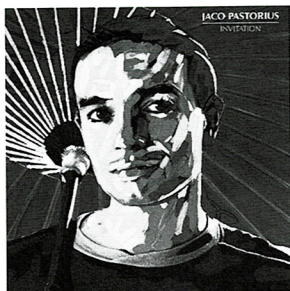
Bridge Fm7/B^b

E^b メジャー・スケール (=B^b ミクソリディアン・スケール)

G マイナー・ペンタ (=B^b メジャー・ペンタ)

あまりに何回も「チキン」をやりすぎた常連たちによってリハーモナイズ(新たなコード付け)が行なわれることがあります。都内のセッションで最近流行っているのが、このコード例、通称「朝倉チキン」です。「丸い月の下」でのバンド活動の他、都内各所のセッションに出没されているピアニスト朝倉浩之さんが発案されました。示したアナライズ(解析)はあくまでも参考としていろいろな解釈で弾いてみて下さい。

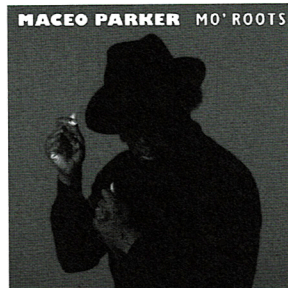
必聴音源!



「Invitation」

インヴィテーション/ジャコ・パストリアス

1982年のライブの様様を抜粋して収録したアルバムで、各曲でジャコ・パストリアスの天才的な演奏を堪能することができます。このアルバムに収録されたことで「チキン」は広く知られることとなりました。「チキン」につながる壮大なイントロ曲「ソウル・イントロ」も収録されていますが、ジャム・セッションでは演奏されません。



「Mo'Roots」

モ・ルーツ/メイシオ・パーカー

ジェイムス・ブラウンのバンドで長らくアルト・サクスを吹いていたメイシオ・パーカーのアルバム。「チキン」の作曲者ピーウィー・エリスもテナー・サクスの参加し、ファンキーかつジャジーな「チキン」を披露しています。ファンク系トロンボーンの大御所フレッド・ウェズリーの演奏も聴きものです。

チキン The Chicken

(D.C. TIME STRAIGHT)

Intro. B^b7 E^b7 B^b7 E^b7 B^b7 E^b7

1 B^b7 E^b7 2 B^b7 E^b7

1x tacet

セッションによっては
B^b7一発の場合もある
ので他のパートを聴い
て確認しましょう

C音のままでD^b音に
いかないケースもあり

A B^b7 E^b7

B E^b7 s. D7 G7

C C7 N.C.

全員ユニゾンのキメフレーズです。
オクターブ上とかいるんなポジション
で弾けるようにしておきましょう

FINE

Bridge B^b7 E^b7 B^b7 cho. E^b7 cho. D B^b7 E^b7 B^b7 E^b7

B^bメジャー・ペンタで弾くとE^b7時にD音が
Δ7thとなってミス・トーンとなるので注意が必
要です。B^bマイナー・ペンタが無難でしょう

B^b7一発なのでB^bメジャー・ペンタで
弾きまくっても安心です

A' B^b7 E^b7 B^b7 cho. D p. E^b7 s. E^b7 s.

B' $E^{\flat}7$ *h. p. h. p.* *Q.C.* $D7$ *s. p.* $G7$ *p.*

Gオルタード7thスケールによる下降フレーズ

C' $C7$ *p.* $H.C.$ $H.U.$ D *p.* $Q.C.$ $H.C.$ D *p.* $N.C.$

Cマイナー&メジャー・ペンタを中心に展開したフレージング

Bridge $B^{\flat}7$ $E^{\flat}7$ $B^{\flat}7$ $E^{\flat}7$

ここはアドリブ演奏者同士の緩衝地帯というかバトンゾーンみたいな感じですよ。いきなり弾きまくるよりなんとなく始めるのも良いでしょう

あなたのSOLO TIME!

付録CDでは1回のみですが、実際のセッションでは2回くらいが相場です(演奏者次第)

A'' $B^{\flat}7$ $E^{\flat}7$

B'' $E^{\flat}7(9)$ $D7(9)$ $G7$

C'' $C7(9)$ $N.C.$

D.C.